

倉敷昆虫同好会70周年記念年末例会

2022年12月18日(日)13時～17時 はあもにい倉敷にて



<プログラム>

(1) 設立70周年記念講演

「倉敷昆虫同好会と私」 脇本 浩氏

自宅は高梁市玉川町(旧川上郡玉川村)の高梁川支流、増原川の下流域で川の両岸は田んぼが開け、両側に山が迫る山裾にある。しかも若い頃はほとんどが農家で牛を飼っていた。このような環境であるため虫に接する機会は十分であった。

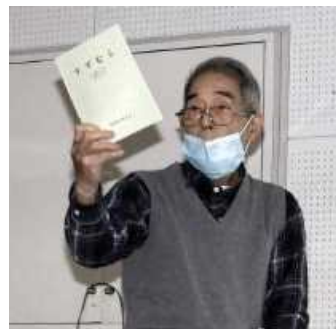
1957年大学に入学して間もなく、倉敷昆虫同好会の存在を知り、高校からの同級生である岡本忠くと共に入会した。そして岡本く

んと共に自宅付近や半山、金甲山、大山などの

採集行や先輩会員と共に方谷・井倉間の採集会などに参加する一方、列車通学の帰りに重井病院に立ち寄り、会員との交流、講演会に参加するなど同好会との関わりを持ってきた。

大学3年の時岡大で日本昆虫学会が開催された際にカミキリムシの採集に取り組みれていた平田信夫先生にお会いし、後日先生宅を訪問もした。その当時は甲

虫ではカミキリムシの収集がブームであり、1966年のカミキリムシの権威、林匡夫先生の講演などを機にカミキリムシの目録の作成に取り組み、青野先生ほか4名で1970年「岡山県のカミキリ



ムシ」(すずむし 103号)をまとめた。また、1972年には多くの協力者の援助で私を含む会員有志数名によって「岡山県の蝶」をまとめることが出来た。さらに、山陽新聞社から同好会に原色図鑑「岡山の昆虫」の編集依頼があり、私も20数枚の写真と記事を分担して完成し、1988年に発行された。そのうちの幾枚かの写真について撮影のエピソードを紹介する。(ムラサキツバメ、カトリヤンマ、ミヤマアカネ、リスアカネ、ニイニイゼミ、キボシカミキリ)

1988年から、重井博先生を中心とする調査メンバーの一人として取り組み、「岡山県におけるカワトンボ属の分布調査結果について」(カラー印刷)が「すずむし 131号」[重井先生追悼号]で報告された。1991年からは中和村に赴任したので県北の調査も担当した。



1999年教員退職後、岡山県自然保護センターに6年間、引き続き鬼ノ城ビジターセンターに9年間勤務し、それぞれでの行事などで来訪者に自然にふれあう楽しさを語った。

鬼ノ城ビジターセンター出勤の際、前夜に電灯に飛来した蛾が翌日残っていたので採集し標本にした。その標本は倉敷昆虫館に寄贈し、いくつかは新鮮な標本として展示されている。

なお、寄贈標本の一部を例会会場に展示した。

(1) 一般発表

「*Atimia*の発見と自宅付近のカミキリムシ 昔と今」 岡本忠氏

1964年自宅付近でのケブカマルクピカミキリの発見とその後の新種記載に至るまでの経過を説明した。2005年より現在まで自宅周辺はおろか総社市北西部(昭和地区)を調べているが採集されなかった。1960~1970年代は甲虫ではカミキリムシブームがあり、この時期の県内記録種数の大幅増加をグラフで紹介した。また、自宅付近のカミキリの昔、今を比較してみた。1950年代後半より5年間で58種、2005年からの18年間で75種と記録数は増えたものの、減少または全く採れなかったものも多く、例を挙げて報告した。



「岡山県におけるタガメの2019~2022年の断片的な夏季調査」安田剛長氏

ある夏の夜、岡山県のとある地域でタガメが多数、灯りに飛来していたのを見て、この近辺にタガメが生息しているのを確信してタガメがどの時期に明かりに飛来するのか?そしてこのタガメは、灯りに飛来してくる範囲内のいったい何処にどんな環境下で生息しているのか?疑問に思い、個人的に調査してみました。



「琉球列島から得られた*Clavicornaltcta* の2新種について」 末長晴輝氏

ヒゲトコマルトビハムシ属*Clavicornalticta*は触角が棍棒状で土壌中やコケ上から得られる特徴的な属で、中国から台湾、東南アジア、オーストラリアに分布し、28種が知られている。国内においては、サキシマヒゲトコマルトビハムシ*C. sakishimana* Suenaga & Yoshida, 2016が八重山諸島から知られている。今回、沖縄島から1新種と石垣島と西表島から1新種をそれぞれ見出した。この2新種はいずれもサキシマと似るが、雄雌交尾器の形状のほか、内骨片の形状などに差異がみられる。



「岡山県で情報の欲しいトンボたち」 守安敦氏

ヒメサナエ、ミヤマサナエ、オオキトンボ、ベニトンボ、ベニイトトンボの現在の詳しい分布、写真や生態をお伝えし情報提供をお願いしました。また、気になるトンボとして、ナニワトンボ、ノシメトンボ、ヒロシマサナエ、マダラナニワトンボ、アオヤンマ、ナゴヤサナエにも触れました。



「2022年に観察したチョウ・ガの生態から」 中村具見氏

フィールドで観察したチョウやガの生態は実に興味が尽きないもので、個人的には今年も新しい発見が相次いだ。特にカエデ以外を食べるミスジチョウの幼虫、エゾスジグロシロチョウやスジボソヤマキチョウの蛹、ゴイシジミの蛹などは初めて撮影できた。日中に偶然見つけたカキバトモエ、ナマリキシタバなどの、生息環境に見事に調和した斑紋にはあらためて感心させられた。



「ヒサマツミドリシジミの食樹は何か」 三宅誠治氏

本種は様々なブナ科植物から卵が得られていて、一部を除き幼虫はそれらを食べて羽化することが知られています。ただ、自然状態でそれらの木々で発生しているかは確認されていません。そこで演者は、生息地周辺に自生が見られるブナ科植物が自然状態において食樹と成り得るかを調べることにしました。その結果、岡山県では食樹として既に知られているウラジロガシ以外の樹種は、ヒサマツミドリシジミの孵化に萌芽が間に合わず発生が困難であることを確認しました。



「年末例会を振り返って」

2022年の年末例会は記念すべき会となりました。2019年に夏の例会を復活させて年末との2回にすることを決定しましたが、その後コロナ禍のため開催することができませんでした。しかし、今年やっと2回の例会を実施することができたのです。ところが、思わぬ問題が起こりました。発表希望者が少なく、やや時間を持て余してしまいました。今までは常に時間不足で、途中で発表者にスピードアップをお願いしたり、質疑応答の時間を削ったり、あるいは恒例の一人一言を急ぎょカットしたりでどうにか時間内に収めてきました。今回の状況から年2回の例会で、延べ10数人の発表者を確保するのは厳しいのかもしれませんが。参加者数が以前の盛況な時まで回復していないのも事実です。今後は両例会をより特徴的なものに色分けしていく必要があると考えています。



発表希望者が少なく、やや時間を持て余してしまいました。今までは常に時間不足で、途中で発表者にスピードアップをお願いしたり、質疑応答の時間を削ったり、あるいは恒例の一人一言を急ぎょカットしたりでどうにか時間内に収めてきました。今回の状況から年2回の例会で、延べ10数人の発表者を確保するのは厳しいのかもしれませんが。参加者数が以前の盛況な時まで回復していないのも事実です。今後は両例会をより特徴的なものに色分けしていく必要があると考えています。

(事務局:岡野貴司)

< 近況報告 >

新年になって岡山市内の龍ノ口山に登ったときのこと。

グリーンシャワー公園から山頂まで登り南展望台方向に少し行ったあたりで目の前を小さな昆虫が飛んだ。帰ってよく見ると県内未記録のコガネムシ、報告は次回すずむしで。

(山地 治)

倉昆70周年記念事業の真備町船穂町昆虫調査に没頭した一年でした。8回の調査会に加えて個人的な調査にも何回か出かけました。一見平凡なフィールドであっても、必ず新しい発見がありますよね。(岡野貴司)

2022年は地元を中心に好きな昆虫の分布調査を継続しました。キマダラルリツバメを未記録の町で確認することが出来たのがトピックです。また、県東部の斑レイ岩や蛇紋岩の地質エリアを調査し、蝶や蛾を中心に、希少種を確認することが出来ました。(末宗安之)

篩やFITで小さい虫に着目すると県初記録の甲虫も少しは見つけられました。(武田雅生)

2022年は採集にいったことがない場所にもいくつか行きました。秋以降は標本の整理などに力を入れました。(武田寛生)

真備・船穂の調査では県未記録の小蛾類が多く得られました。別件では、岡山市で採集した未記載種(ニセマイコガ科)の記載も準備中です。県内の小蛾類はあまり調べられていないため、まだ種数が増えると予想されますので、引き続き調べていきたいと思います。

(寺田 剛)

(参加者名)脇本浩, 岡本忠, 中村具見, 山地治, 岡野貴司, 守安敦, 三宅誠治,

末宗安之, 安田剛長・安田弥生, 末長晴輝, 寺田剛, 武田雅生, 武田寛生 以上14名

倉毘一泊調査会(2023)

昨年は同好会 70 周年行事である倉敷市真備町・船穂町の調査を補強するため、この調査会も真備町で行いました。しかし今年は、好環境と上々の成果を求めて県北の蒜山高原での開催と致します。参加希望者は、下記の概要をご覧の上申込先にご連絡下さい。

調査対象地域 真庭市蒜山高原

日程 令和 5 年 7 月 22 ~ 23 日 (土、日)

日中の調査は、各自自由に狙いを定めて実施して下さい。その後、午後 6 時に宿泊場所であるコテージに集合して下さい。宿泊者は、夕食とミーティングを午後 7 時に予定しています。悪天候でなければ夜間に燈火採集を行います。

宿泊場所 真庭市蒜山湯船 コテージ楽寛創

<https://rakkanso.jimdofree.com>

宿泊料 (素泊まり) 一人 6,000 円程度・人数により変動

宿泊はコテージを一棟貸し切りにしますので、参加人数によって一人当たりの負担額が増えることもご承知おき下さい。寝具やタオル等は準備されています。食事の提供が無いため、持込が自炊となります。詳しくは上記のホームページをご確認下さい。定員 (8 人) を超える場合、コテージ横の空きスペースにテントを張って宿泊することも、或いは車中泊も可能ですが (参加費を軽減します)、広さにも制限があるので事前にご相談下さい。参加希望者は可能な限り受け入れようと思っておりますが、一応の目安として 7 月 10 日 を締め切りといたします。

申込先 三宅 : miya@tamano.or.jp 090-7502-8468

新刊の紹介

大屋厚夫著 「日本列島の蝶」

待望の図鑑が昨年末に上梓された。「琉球列島の蝶」に次ぐ著者の日本産蝶類に関する図鑑シリーズの第 2 作である。今回は本土編で主に西日本に分布する 86 種が掲載されており、私たちには馴染みのある種ばかりだ。著者は野外ハンドブック「蝶」(山と溪谷社)を嚆矢として野鳥をはじめ多くの写真集や解説書を手掛けてきたが、そうした著作の集大成ともいうべき図鑑である。

岡山市在住の著者は、医院経営の傍ら蝶類の研究、とりわけ生態面に焦点をあてて長年にわたり精力的に取り組んで来た。本書にはそれらの成果が余すことなく凝縮されており、多くの新たな知見が随所にちりばめられている。また、観察フィールドの多くが岡山県内なので、身近な地名とそこに生息するチョウたちが次々と登場す



るのは、地元の間人としても実に親しみを感じる場所である。

図鑑と言えば、展翅された標本が比較できるように配列・図示されているのが通例である。だが、その手の図鑑はこれまでに数多出版されている。しかし、本書にはサカハチチョウ隠岐諸島亜種の記載以外に標本は図示されていない。幼生期を含めてそのほとんどが野外における生態写真なのだ。この撮影だけでも、大変な努力と労力が注ぎ込まれていることは容易に想像できるだろう。

ギフチョウから始まる種別解説を紐解くと、見開きの左にショウジョウバカマに止まるギフチョウが現れ、次いで右ページからその種の解説に入り、分布、周年経過、食草、棲息環境、幼生期、成虫と項目ごとに詳しく述べられている。特に、すべての種について卵から幼虫、蛹に至るまでの幼生期が写真とともに克明に記述されており、幼生期の研究に資すること大である。このほか、和名の由来や学名の変遷、発見史その他、その種にまつわる歴史的な経緯等にも触れられており、奥深い知識が得られることも有難い。そして何よりも、卓越したカメラワークで生き生きとしたチョウの姿を見事に捉えた多くの画像の中から、選りすぐりのカットが多数掲載されており、解説と写真だけで現地にいるような臨場感を覚えるのも他の図鑑にない特色だ。読み進めていくうちに、自然と「大屋ワールド」に引き込まれてしまう。

最近では採集から遠ざかりつつある筆者にとって、生き物としてのチョウへの興味は増すばかりで、なぜこんな斑紋をしているのか、なぜ幼虫はこの植物しか食べないのか、どのように環境に適応し進化を遂げてきたのかといった疑問に対して様々な示唆を与えてくれる本書は、まさにチョウに対するセンス・オブ・ワンダーに満ち溢れている。長年にわたる地道で緻密な観察と映像記録の積み重ねを通じて、チョウの生態を追求してきた著者の深い見識が詰め込まれているからに他ならない。

最後に付け加えておくと、書籍としての完成度を高めるために、カラー印刷の微妙な色合いを引き出すことに細心の注意を払うとともに、これを再現するための最高の用紙、見開いた時の背表紙の柔軟な開き具合など、印刷から製本に至るまで、こだわりときめ細やかな気配りが見受けられ、手に取ってみればその上質な仕上がりが実感できるはずだ。

下手な解説は置いて、帯カバーの奥本大三郎氏による「味わい深い写真。科学的で、行き届いた、温かい解説。日本の蝶の研究が、その頂点を極め、さらに円熟の域に達していることを、本書はよく示している。」という言葉がすべてを言い尽くしている。

A 4判 416 ページ、本体定価 23,000 円と、大冊で高価な書籍ではあるが、チョウファンには絶好の「蝶への誘い」の書籍であり、多くの方に手にとっていただければと思う。

本会会員には、著者宛に直接申し込めば、税・送料込みで 23,000 円、また学生（大学生以下）の方は、同 20,000 円で購入できるとのことです。ご希望の方は、下記までメールで申し込んでください。

（申込先）〒701-0135 岡山市北区東花尻 229-1 大屋厚夫

（E-mail : hummingbird@oregano.ocn.ne.jp）

（中村具見）

倉敷市立自然史博物館の催しもの案内

特別陳列「折り紙昆虫展」

すべては1枚の正方形の紙から。折り紙作家の江頭聖大（えがしら まさひろ）さんのオリジナル作品40点を展示します。モデルとなった当館所蔵の実物昆虫標本もあわせて展示します。見くらべるほどに、昆虫大好き江頭さんの観察力と技法に驚愕！

会期：4月9日（日曜日）まで

特別陳列「新着資料展」

剥製・昆虫標本など、最近新たに博物館に収蔵した資料をお披露目します。元本会会員の故浅野憲一氏のコレクションも展示します。

会期：2023年4月29日（土・祝）～6月25日（日曜日）

ゴールデンウィークスペシャル

自然史博物館ではゴールデンウィークにさまざまな自然のイベントを行います。今年のゴールデンウィークは自然史博物館へ行ってみよう！

開催期間：2023年4月29日（土・祝）～5月6日（土曜日）

お問い合わせ先：倉敷市立自然史博物館

[TEL:086-425-6037](tel:086-425-6037)（奥島雄一 倉敷市立自然史博物館）

【倉敷昆虫館からのお願い】

倉敷昆虫館は重井薬用植物園との共催行事として2015年より子どもたちを対象とした昆虫採集会を実施しております。（2018年からは年3回）

この植物園には池、湿地、草原、広葉樹の林などが有り、狭いながらも里山の状態を残した昆虫の生息場所として貴重な場所です。この行事は子どもたちに昆虫の観察や採集を通して自然とのふれあいを体験する貴重な機会となっています。定員は30～50人であり、小学生や幼児などの親子連れの参加者がほとんどで、近年では申込期間の初日に定員に達し大盛況です。

これら参加者の対応には、これまで同好会からは守安敦氏が2015年～2022年の毎年、脇本浩氏には2016年～2018年の3年間ご協力いただきました。また、安達由莉、末長晴輝、水井颯麻の各氏にはそれぞれ1回ずつではありますがお世話になりました。

多数の参加者が園内を分散して活動するため、昆虫館の職員だけでは対応しきれません。同好会員の皆様のご援助をよろしくお願いいたします。

今年の日程は下記のとおりです。（1か月前には植物園、昆虫館のHPで案内をします。）ご協力いただける方は、1週間前までに昆虫館にご連絡ください。

①7月15日（土）17:00～21:00「みんなでたんけん！夜の昆虫観察会」

8月11日（金：祝日）8:00～10:00「夏の！虫をつかまえてみるかい！」

9月23日（土：祝）10:00～12:00「秋の！虫をつかまえてみるかい！」

【倉敷昆虫館（同好会事務局）所蔵文献の紹介】

（その3）定期刊行誌ほか

誌名	発行者	巻(号) [発行年]
新昆虫	北隆館	1(1)[1948] - 18(14)[1983]
採集と飼育	内田老鶴園	20(1)[1958] - 23(12)[1983]
昆虫と自然	ニューサイエンス社	(1)[1966] - (82)[1973] 他に不連続 (200)[1984] - (337)[1991] に10数号 (463)[2000] - (477)[2001] あり。 (604)[2011] - (774)[2023]
月刊むし	むし社	(1)[1971] - (53)[1975] (100)[1982] - (288)[1994] (359)[2001] - (566)[2018]
蝶類年鑑	蝶研出版	1986 - 2007
蝶研サロン	蝶研出版	1(1)[1986] - 5 (5)[1990]
蝶研フィールド	蝶研出版	16(7)[2001] - 22(11/12)[2007]
昆虫	日本昆虫学会	1(1)[1926] - 41(4)[1974]
衛生動物	日本衛生動物学会	1(1)[1950] - 24(4)[1973]

【交換文献】

(2022.11.18 ~ 2023.3.23)

駿河の昆虫 (279)(280)	静岡昆虫同好会
ちゃっきりむし (213)(214)	"
KORASANA (100)	久留米昆虫同好会
久留米虫だより (257)	"
ゆらぎあ (40)	鳥取昆虫同好会
NatureStudy68 (11)(12) 69(1)(2)(3)	大阪市立自然史博物館友の会
げんせい (98)	高知昆虫研究会
比和科学博物館研究報告 (64)	庄原市立比和自然科学博物館
インセクト 73(2)	とちぎ昆虫愛好会
誘蛾燈 (250)(supplement17)(251)	誘蛾会
TINEA 26(4)	日本蛾類学会
蛾類通信 (304)(総目次)	"
Mushi Mezuru (53)	鈴木 裕
へりぐる (44)	瀬戸内むしの会
とっくりばち (90)	石川むしの会
いよにす (39)	愛蝶会
ホシザキグリーン財団研究報告 (26)	ホシザキグリーン財団
ホシザキグリーン財団研究報告特別号 (32)	"

<倉敷昆虫同好会 連絡先> 年会費 2,000円 郵便振替口座 01210 - 2 - 6927
 〒710-0051 倉敷市幸町2-30 倉敷昆虫館内 倉敷昆虫同好会事務局
 TEL . 086-422-8207(直通) FAX . 086-421-1991 E-メ-ル kurakon@shigei.or.jp
 開館：午前9時30分から午後5時まで（13:00から14:00は閉館）
 休館日：月曜日（祝日・休日の場合は開館し、翌日が休館）、12月29日から1月3日
 倉敷昆虫同好会ホームページ： <https://www.shigei.or.jp/kurakon/>